SUNNY SIDE UP GROUP

株式会社サニーサイドアップグループ
2024年6月期第2四半期 決算補足説明資料

Agenda

アジェンダ

1. 2024年6月期 第2四半期連結決算レビュー
2. 事業状況
3. 中期成長戦略の進捗
4. Appendix

連結決算ハイライト

- 2Q累計営業利益は過去最高を更新、営業利益率は二桁台へ上昇
- ブランドコミュニケーション事業では1Qに吸収合併を完了、統合効果が顕在化し、2Qに利益改善が加速
- 通期業績予想を据置き、従来より目線を上げた通期計画に対して利益は順調に進捗、中間配当を実施

【2Q累計】営業利益

997百万円

・2Q累計の過去最高益を更新
・前期比+17.1%（2Q単独+46.6%）

【2Q累計】営業利益率

前期7.9%→10.9%

・2Qに改善幅が拡大
（前期差異1Q+0.8pt、2Q単独+4.2pt）

ブランドコミュニケーション事業 営業利益率

前期13.4%→19.7%

・PRで利益改善、原価率の高い販促施策・商品企画の構成低下も影響

営業利益 通期業績予想進捗率

64.0%

・過去2期平均（対通期実績）64.6%

通期業績予想

据置き

・売上高は1Q下振れも、従来より下期重視で提案強化、利益は保守的に想定

株主還元

8期ぶりの中間配当

・中間配当金は1株当たり5円
・期末15円予想で年間配当金は20円

1.

2024年6月期 第2四半期 連結決算レビュー

連結業績サマリー

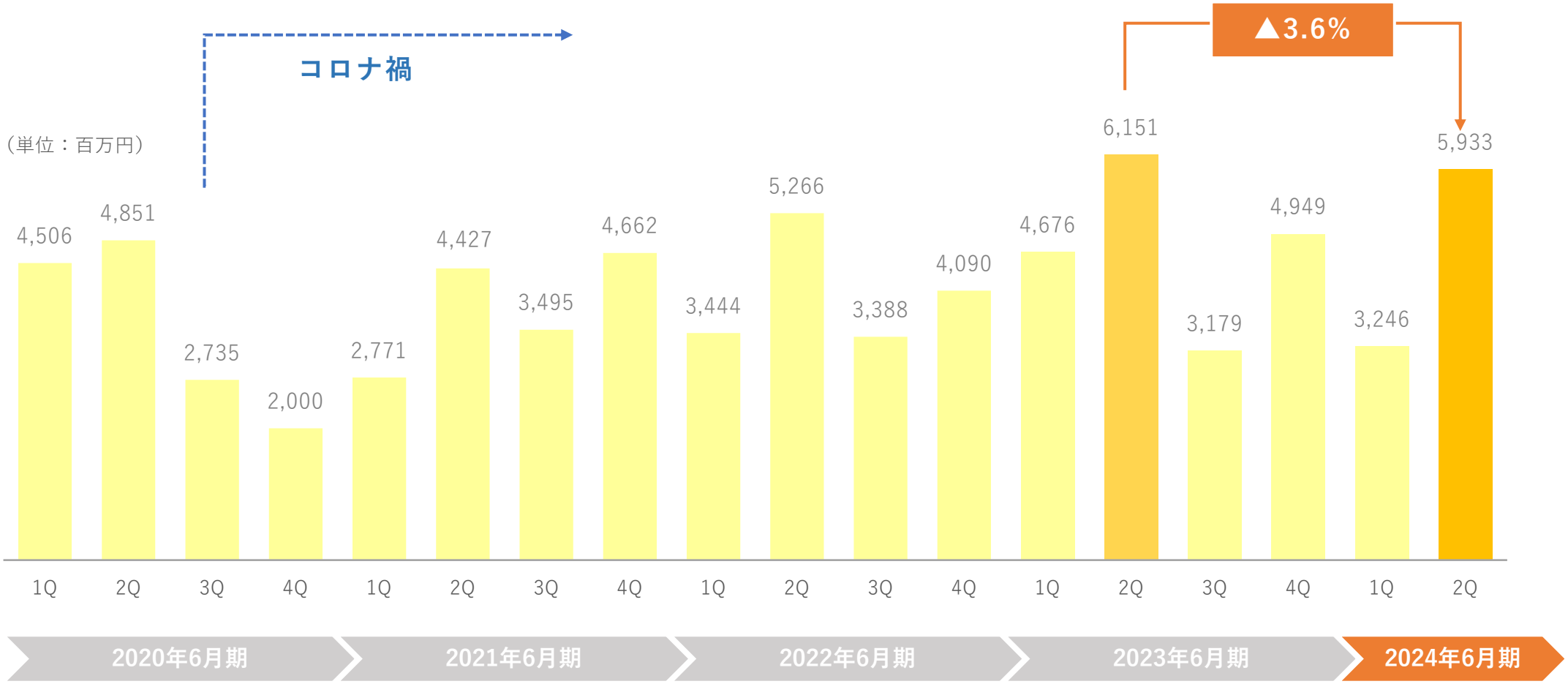
- 営業利益以下で二桁増益を達成、各段階利益は2Q累計の過去最高益を更新
- 売上高は1Q減収の影響が残るが、原価率の高い販促施策・商品企画の構成低下は利益率改善に寄与
- 通期業績予想に対する進捗率は売上高で低いものの、各段階利益は順調に推移

（単位：百万円）

	2022年6月期 第2四半期	2023年6月期 第2四半期	2024年6月期 第2四半期	対前年同期 増減率	2024年6月期 通期業績予想（2023年8月14日公表）	進捗率
売上高	8,710	10,828	9,179	▲15.2%	21,000	43.7%
営業利益 （営業利益率）	487 （5.6%）	851 （7.9%）	997 （10.9%）	＋17.1% （+3.0pt）	1,560 （7.4%）	64.0%
経常利益	899	891	1,004	＋12.7%	1,540	65.2%
親会社株主に帰属する四半期純利益	528	520	601	＋15.5%	930	64.6%
1株当たり四半期純利益	35.09円	34.86円	40.29円	—	62.35円	—

四半期別売上高推移

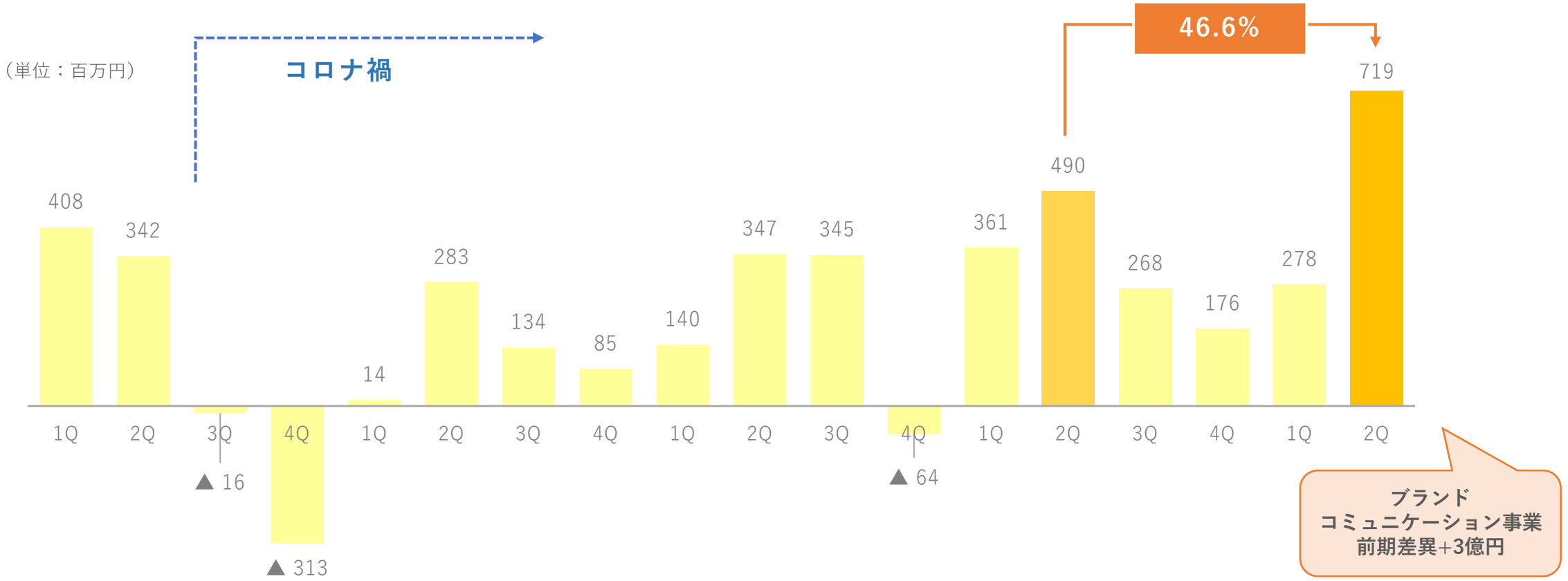
- 前期に売上を牽引した販促施策の特需剥落で1Q大幅減収となったものの、2Qは微減にとどめる



（注）収益認識会計基準等を2022年6月期の期首より適用しております。

四半期別営業利益推移

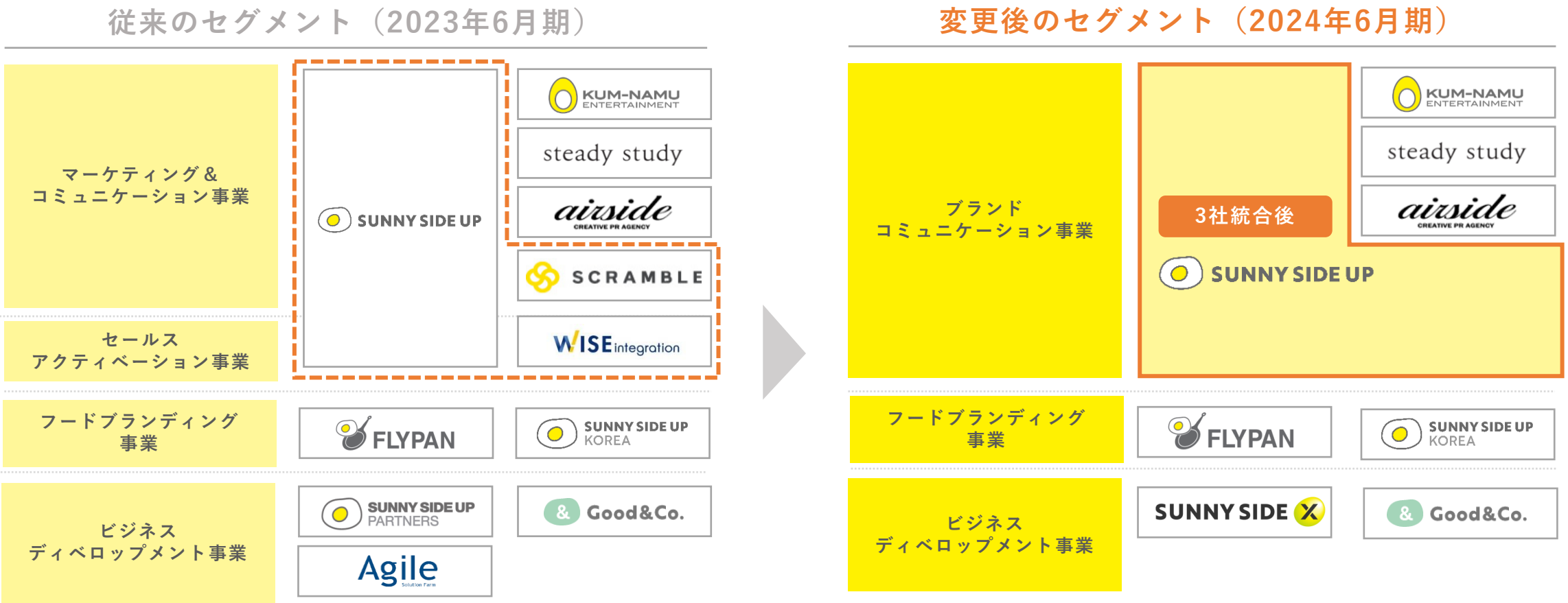
- 2Qは46.6%増益、ブランドコミュニケーション事業で3億円改善、PR中心に改善が進む



2020年6月期	2021年6月期	2022年6月期	2023年6月期	2024年6月期
通期累計4.2億円	通期累計5.1億円	通期累計7.6億円	通期累計12.9億円	

報告セグメントの変更

- 連結子会社3社間の吸収合併を契機に経営管理区分を見直し
- 従来の2事業を統合して「ブランドコミュニケーション事業」へ変更、基幹事業として再定義



（注）1. 株式会社サニーサイドアップを存続会社とする連結子会社間の吸収合併を行い、株式会社ワイズインテグレーション、株式会社スクランブルを統合
2. 株式会社アジャイルは2023年7月に全株式を譲渡したため、2024年6月期より連結対象外
3. 2023年7月に株式会社サニーサイドアップパートナーズは株式会社サニーサイドエックスへ商号変更

セグメント別業績

- ブランドコミュニケーション事業：PRが増益寄与、販促施策等は19億円減収も前期並み利益を確保
- フードブランディング事業　　：インバウンド需要とリニューアル効果により国内収益好調
- ビジネスディベロップメント事業：減収減益、子会社株式譲渡に伴う減収とXR事業立ち上げ費用が影響
- 調整額　　：費用増加、吸収合併後にオフィスの全面改装を実施

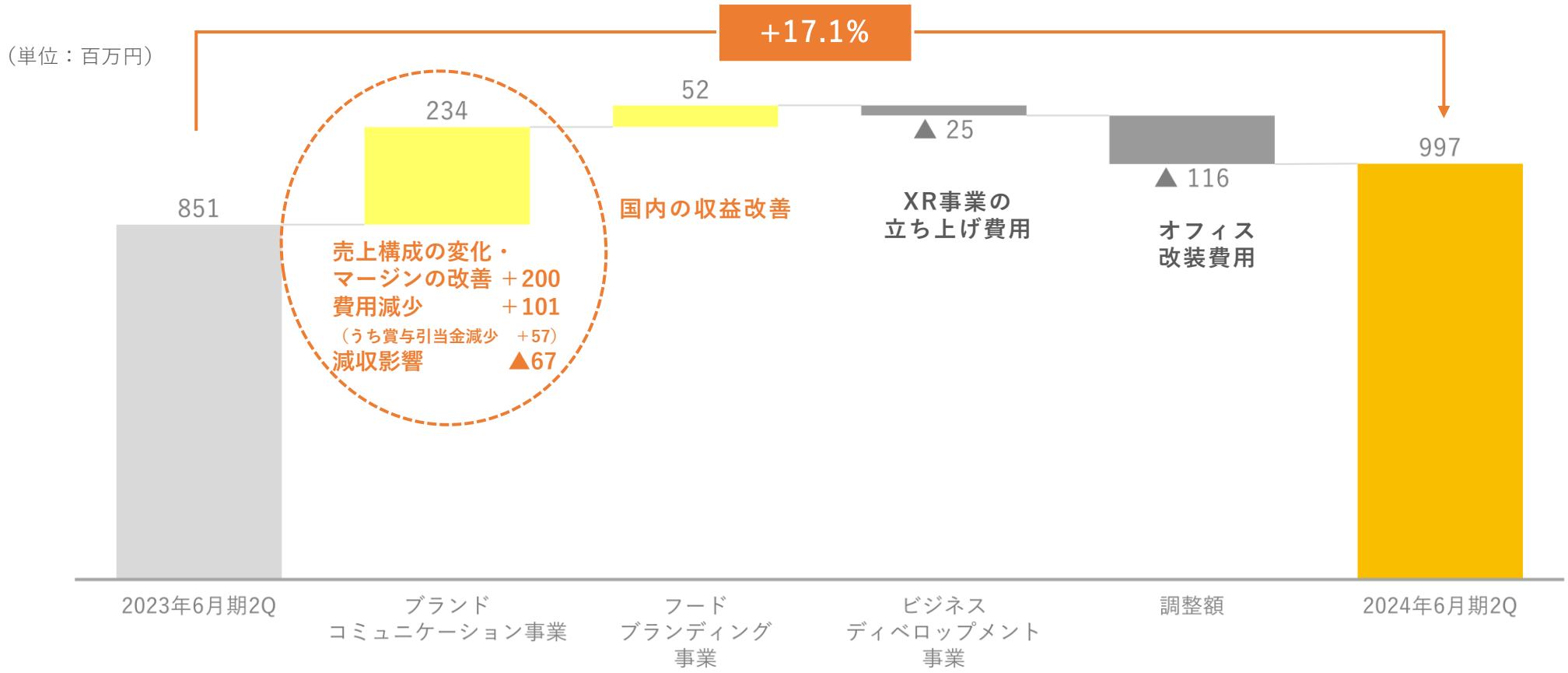
（単位：百万円）

	売上高				セグメント利益（営業利益率）			
	2022年6月期 第2四半期	2023年6月期 第2四半期	2024年6月期 第2四半期	対前年同期増減率	2022年6月期 第2四半期	2023年6月期 第2四半期	2024年6月期 第2四半期	対前年同期増減率
ブランドコミュニケーション事業	7,210*	9,191	7,444	▲19.0%	1,216*（16.9%）	1,228（13.4%）	1,463（19.7%）	+19.1%
フードブランディング事業	1,165	1,361	1,648	+21.1%	▲160	19（1.4%）	72（4.4%）	3.7倍
ビジネスディベロップメント事業	335	275	86	▲68.4%	▲82	22（8.0%）	▲3	—
調整額	—	—	—	—	▲485	▲418	▲534	—

（注）1. 2022年6月期2Q実績は旧区分の2事業を合計して参考値（*）として表示しております。
2. 2023年6月期2Q実績は変更後のセグメントに組み替えて表示しております。

営業利益変動要因

- ブランドコミュニケーション事業で大幅改善、収益性の高いPRの売上構成比上昇と改善施策が寄与
- 吸収合併に伴う機能統合で費用減少、賞与引当金の減少は中長期成長方針に沿った計画策定への変更が影響



2024年6月期　通期業績予想

- 期首公表の通期業績予想を据え置き
- 売上高は1Q下振れの影響が残るものの、PR中心に受注獲得へ提案強化、利益は保守的に想定
- 中間配当を実施、1株当たり年間配当金は5円増配の20円予想（中間配当金5円、期末配当金15円）

（単位：百万円）

	2023年6月期 実績	2024年6月期 業績予想	対前年同期 増減率
売上高	18,956	21,000	+10.8%
営業利益 （営業利益率）	1,296 （6.8%）	1,560 （7.4%）	+20.3% （+0.6pt）
経常利益	1,335	1,540	+15.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	884	930	+5.1%
1株当たり当期純利益	59.28円	62.35円	—
1株当たり年間配当金 （うち中間配当金）	15円 （－）	20円 （5円）	—

2.

事業状況

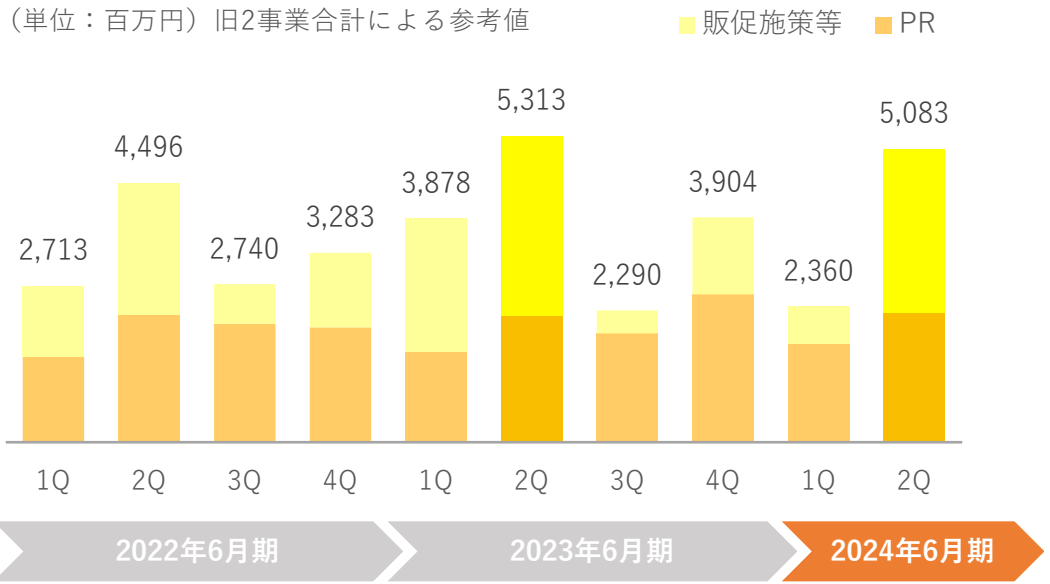
ブランドコミュニケーション事業　業績推移

- 売上高は1Qに販促施策・商品企画の特需剥落の影響があったものの、2Qは微減にとどめる
- 営業利益はPR中心に改善加速、販促施策・商品企画は1Q利益僅少も2Q挽回、吸収合併後の梃入れ効果

2Q売上高

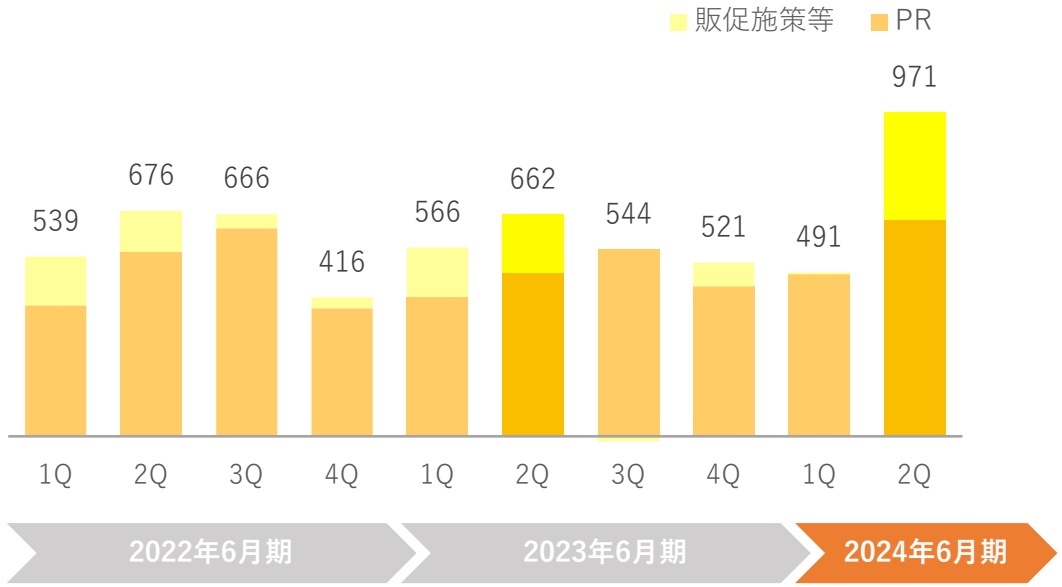
5,083百万円／累計 7,444百万円

（単位：百万円）旧2事業合計による参考値



2Q営業利益

971百万円／累計 1,463百万円

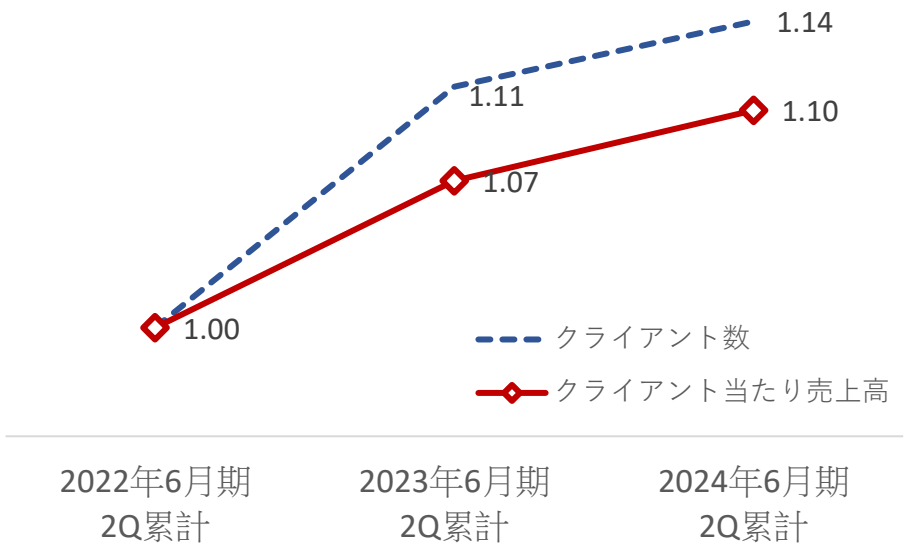


（注）1．旧区分のマーケティング＆コミュニケーション事業とセールスアクティベーション事業を合計して参考値として表示しております。
2．2023年6月期の1Q、2Q実績は変更後のセグメントに組み替えて、2024年6月期の1Q、2Q実績は旧セグメント概算で表示しております。

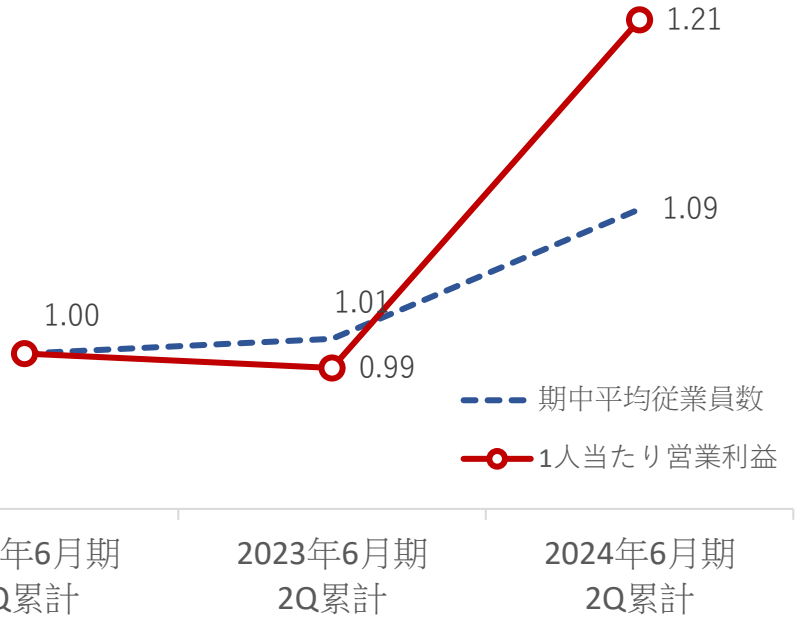
ブランドコミュニケーション事業　収益構造の変化

- クライアントリレーションの強化や高付加価値化への取り組みが奏功
- リテナー契約の獲得・更新を図るとともにクロスセルやアップセルを進め、クライアント当たり売上高が増加
- 低収益案件の見直しや稼働の適正化にも着手
- 吸収合併後の株式会社サニーサイドアップの従業員数は1割弱増加、1人当たり営業利益は2割増加

【統合3社】PRクライアント状況推移
（2022年6月期＝1とした場合）

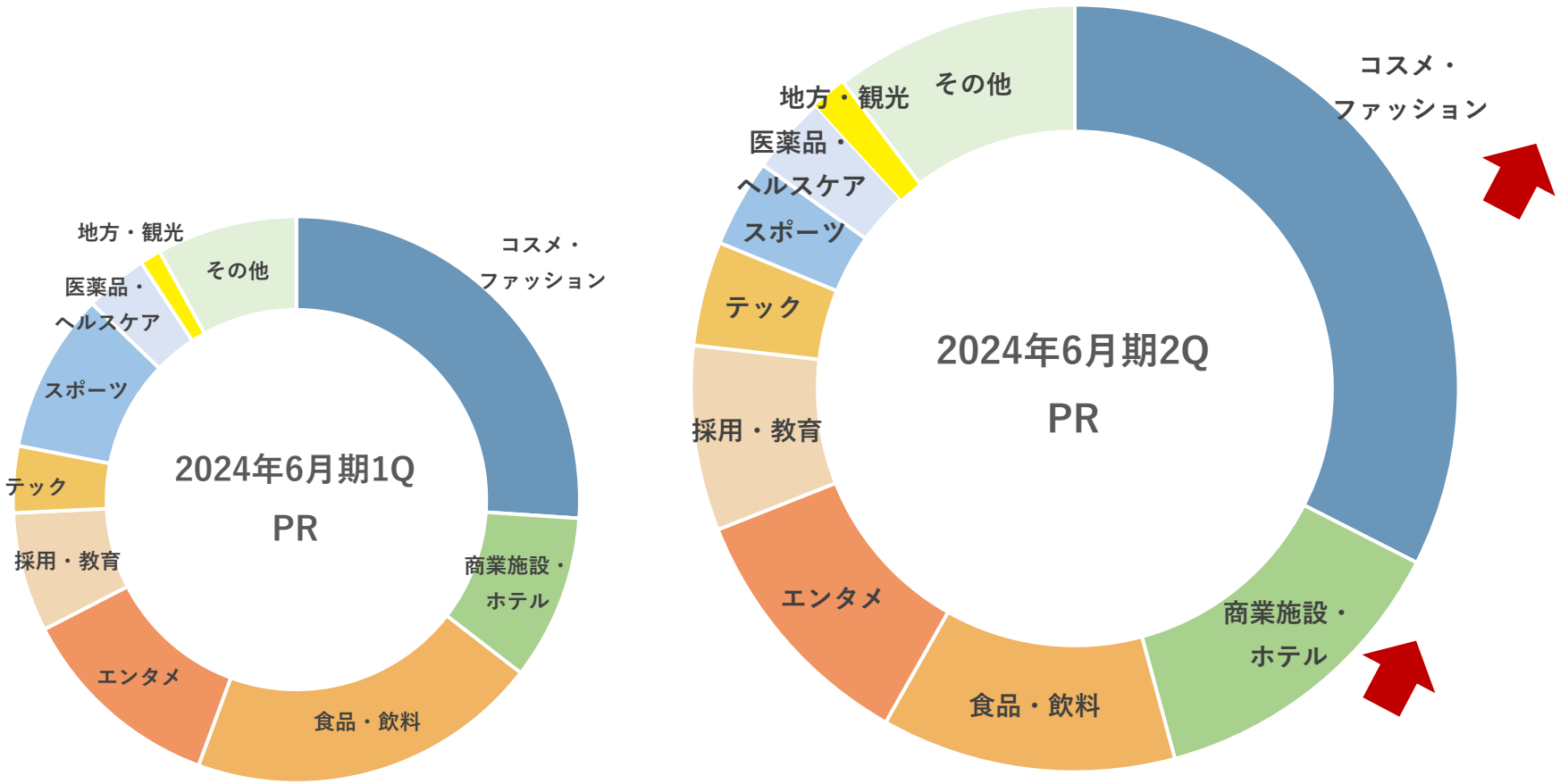


【統合3社】生産性推移
（2022年6月期＝１とした場合）



ブランドコミュニケーション事業　業種別売上構成

- 特定業種に依存することなく、多様な業種に対応
- コスメ・ファッション、食品・飲料、商業施設・ホテルのPRに強み、2Qは特に2業種の動向が変化
- 2Qは海外コスメ等が伸長、都心の大型施設、都心・広域中心都市のホテル開業も受注拡大に繋がる



ブランドコミュニケーション事業　第2四半期ハイライト

- 商業施設の開業PR、地方創生PR、国内外キャスティングなど、幅広い領域でサービスを提供

虎ノ門ヒルズステーションタワー（10/6開業）
麻布台ヒルズ（11/24開業）の開業PR

- 開業へ向けて、広報戦略策定からメディア内覧会、VIP式典、オープニングセレモニー等のイベント開催まで総合して担当
- 11月20日に行われた「麻布台ヒルズ メディア内覧会」には、メディアのみで1,200名以上を誘致
  －メディア内覧会から開業日までに42番組85コーナー（総放映時間：3時間23分）の露出獲得

国内外のキャスティング、クリエイティブ制作

- 大谷翔平×dip
  －キャスティング、クリエイティブ制作、プロモーション等
  －TVCM・屋外広告を公開
  CM（30秒/ 15秒）は公開1ヵ月で総視聴640万回を突破
- NewJeans×ロッテ「イタガム」
  －キャスティング、広告代理業務

参照先 株式会社クムナムエンターテインメント
http://kumnamu.co.jp/

地方自治体・企業などコミュニティ課題を解決する
専門ユニット「地方創生ユニット」を発足

- コンサルティング業務のほか、PRプラニング、メディアプロモート、プレスツアー、ファクトブック制作、デジタルマーケティングなどを提供

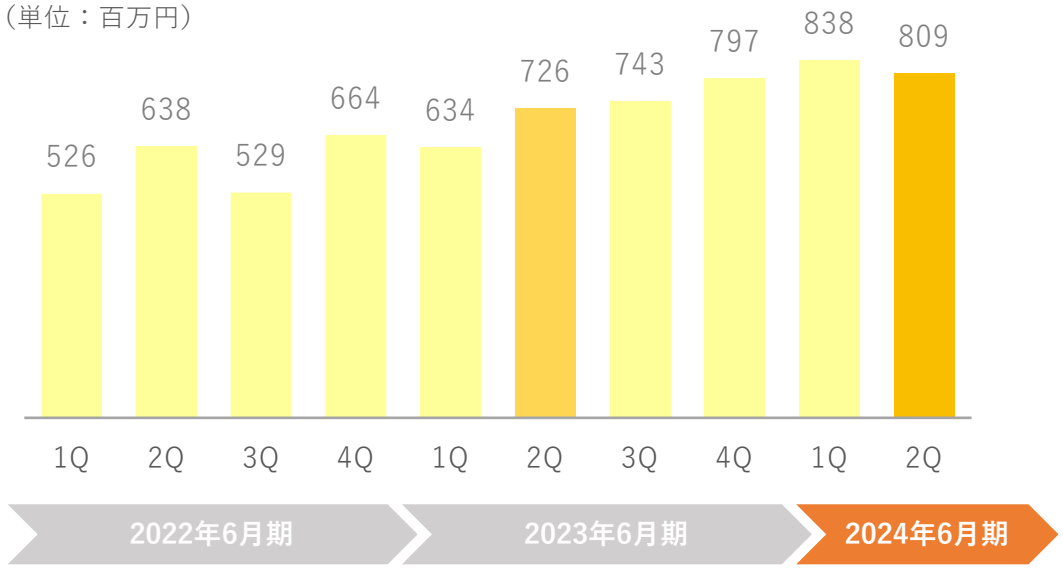
フードブランディング事業　業績推移

- 国内の改善継続、改装は前年12月横浜赤レンガ倉庫店に続き、2023年12月七里ヶ浜店実施（2024年3月表参道店）
- 年2回のメニュー改編で新たなテーマを訴求、集客と客単価上昇に寄与
- 2Qは売上原価・経費の増加により、営業利益は微増で着地

2Q売上高

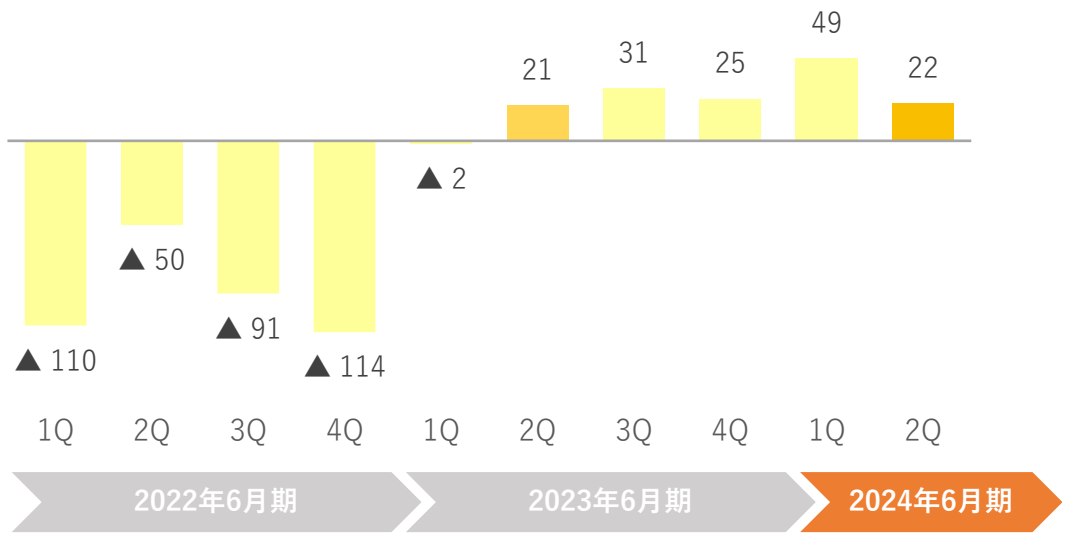
809百万円／累計**1,648**百万円

（単位：百万円）



2Q営業利益

22百万円／累計**72**百万円



ビジネスディベロップメント事業　業績推移

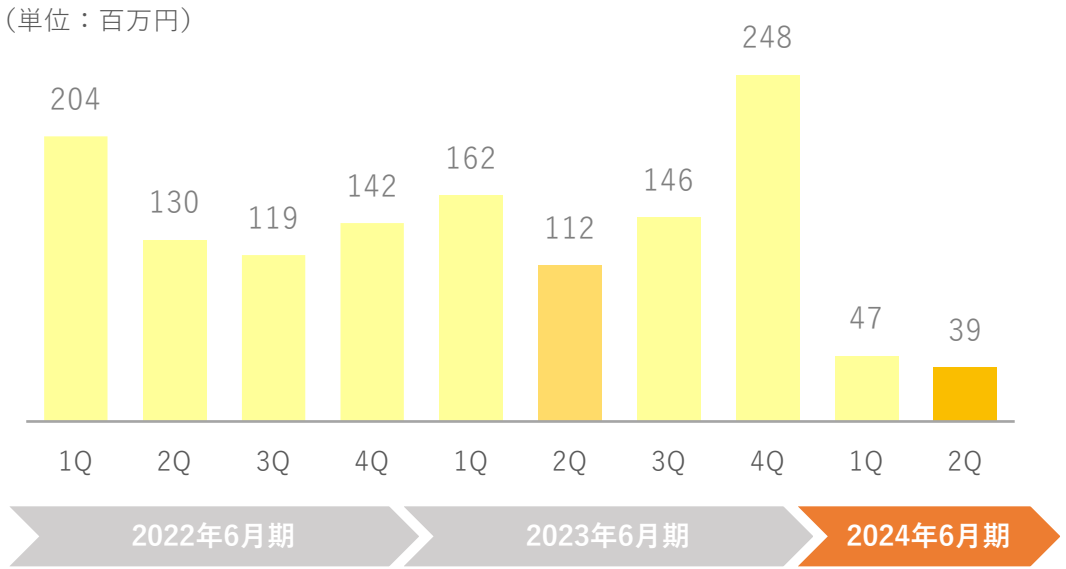
- 2023年7月に子会社の全株式譲渡、減収影響は1Q約1億円、2Q0.6億円
- 2023年9月にXRスタジオを開設、サービス提供拡大に向けて営業体制強化、2Q減益は立ち上げ費用影響
- ウェルビーイングや女性活躍推進等、社会課題の解決に資するコミュニケーションサービスも継続展開

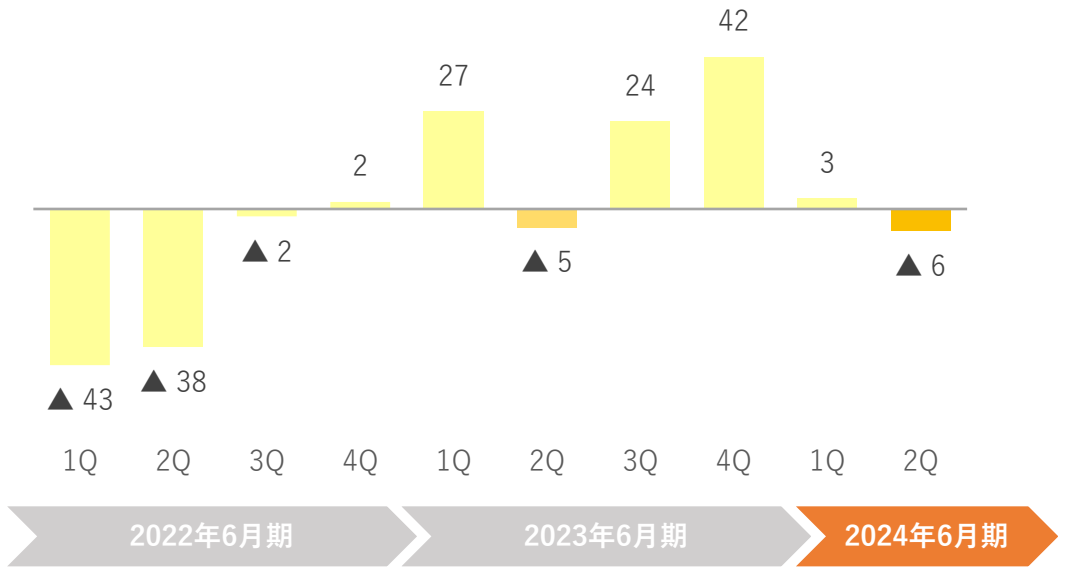
2Q売上高

39百万円／累計86百万円

2Q営業損失

▲6百万円／累計▲3百万円



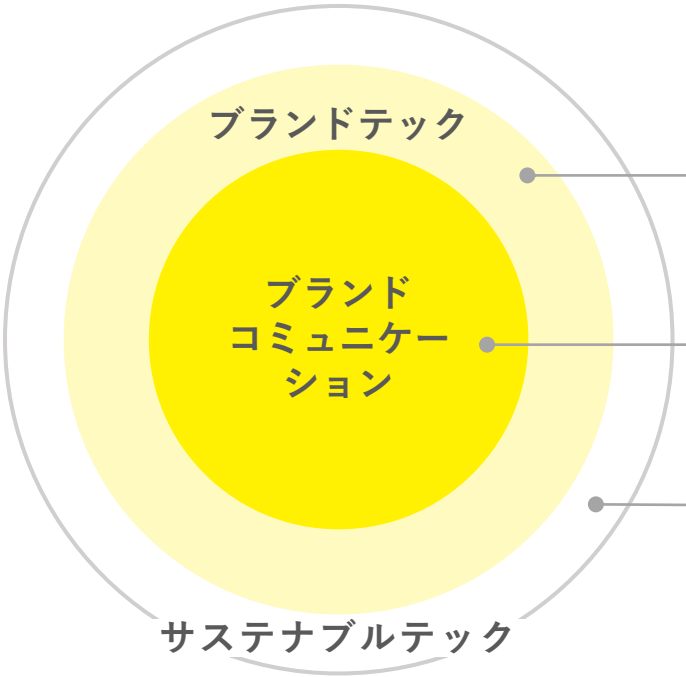


3.

中期成長戦略の進捗

成長のための事業ポートフォリオ

- ブランドコミュニケーション領域で、 2024年6月期からの3か年は大きな成長が可能
- 同時に、テクノロジー（テック）領域へも、中長期の時間軸でコア事業周辺から戦略投資を進める



次期成長の柱として、
コア事業周辺のプロダクト開発に投資
（労働集約依存モデルの脱却）

中期3か年はコア事業で成長

10年程度の長期目線で、社会的課題を解決する
革新的技術の探索に着手

2024年6月期からの3か年はコア事業とコア周辺に集中

（注）2023年8月14日公表 「2023年6月期決算説明資料」より抜粋

core

コア事業の極限までの成長

- 2024年6月期からの3か年は極限までコア事業を強化
- 短期・単発案件の対応で終わらず、顧客基盤を活用して、クライアントとの長期的な関係構築へ

	これまで	新生サニーサイドアップ
クライアント開拓	“インバウンドリード” • 問い合わせ中心（×営業） • 短期案件・単発案件	“クライアントリレーション”型 • 統合3社の顧客基盤活用 • CMO級との長期信頼の構築
提供サービス	全力対応 • 依頼内容に全力を傾ける	＋αの付加価値提案 • サービスラインナップ化 • 積極的なクロスセル
体制	新卒採用OJT中心 • 学生から応募多数、例年20-30名を採用 • OJTによる早期戦力化	統合3社人財の最適配置 • 先端教育を実施
	稼働人数≒売上	高付加価値≒収益最大化

（注）2023年8月14日公表 「2023年6月期決算説明資料」より抜粋

core

新生サニーサイドアップ　変革の進捗

- クライアントリレーションを強化、大手企業のマーケティング責任者との交流イベントも開催
- 統合した3社の強みを融合した共同提案を加速、クロスセルの好事例を創出

クライアント開拓	• 企業のマーケティング責任者との関係構築に注力、クライアント数も増加 • 2024年2月にInfluencer Marketing Summit※1を開催 – 大手企業マーケティング責任者を招待 – 成功事例の紹介やインフルエンサーが直接登壇するトークセッションを開催
提供サービス	• クライアント当たり売上高が増加 • 統合3社の強み（PR・商品企画・インフルエンサーマーケティング）を融合した共同提案を加速 – PR支援中のクライアントにインフルエンサー企画を提案するなど、クロスセルの好事例を創出
体制	• 組織改編を実施、統合3社横断的な提案体制を構築 • 社員を対象とした高度なトレーニングも継続開催

（注）※1　AnyMind Group株式会社と株式会社サニーサイドアップの共催

ブランドテックの進捗

- **XRスタジオによるサービスを提供開始、背景3D(XR)空間データも多数保有**
- **Potlatch社と業務提携し、XRデバイスHMD向けのVRコンテンツの制作にも着手**

XR※1 スタジオを活用したサービス提供開始

- 株式会社Mizkan様の社内表彰をXR技術で開催
- 現在、20以上の背景３D（XR）空間を保有
- 3D空間の高速大量制作が可能な体制を完備

新サービスの制作開始

- 新たにゴーグル型XRデバイス「ヘッドマウントディスプレイ」（HMD※2）向けのVRコンテンツ制作が決定
- 今春リリースに向けアプリ制作が進行中

（注）※1　現実世界と仮想世界を融合することで、現実にはないものを知覚できる技術の総称
※2　ゴーグルのように頭部に装着することで目の前に仮想空間が広がり、映画、映像、ゲーム等、多様なVRコンテンツを没入感高く楽しむことができるデバイス

Sustainable Tech

サステナブルテックの進捗

- アジア初、女性のウェルビーイングにフォーカスした新設ファンド「NEXTBLUE」へ LP出資を実施
- 「NEXTBLUE」への参画を機に、教育やテクノロジーをはじめとした幅広い領域への出資を通じて、個人が自分らしく活躍できる社会の実現を目指す

新設ファンドの概要

名称	NEXTBLUE NEXTBLUE2号投資事業有限責任組合
設立	2023年5月
事業内容	起業家支援、投資事業有限責任組合の運営管理、欧州企業の日本への誘致、日本企業の欧州への誘致

出資の背景と狙い

- 女性特有の体調不良による経済損失**年間約4,900億円**※1
- しかし、アジアで女性ウェルビーイング特化ファンドは存在しなかった

- **アジア初の女性ウェルビーイングにフォーカスしたファンド NEXT BLUEを通じ、幅広い領域への出資を実施**
- **個人が自分らしく活躍できる社会の実現を目指す**

今後想定される女性向けサービス出資領域

- フェムテック※2
- 教育、金融サービス
- 転職、リスキング支援※3

（注） 2023年11月13日公表 「2024年6月期第1四半期 決算補足説明資料」より抜粋
※1 出典 健康経営における女性の健康の取り組みについて（平成31年3月経済産業省ヘルスケア産業課）
※2 フェムテック：女性が抱えるヘルスケアの課題をテクノロジーで解決する商品やサービス
※3 新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する／させること

人的資本経営ガイドライン

- 性別・国籍・宗教・LGBTQを越えて、全員が活躍する組織、まず女性活躍を更に推進
- 3社統合直後に全社員のエンゲージメントスコアを把握、設定KPIへの改善活動
- クライアントへ更なる価値を創出するため、教育投資を計画

ホールディングス 取締役女性比率

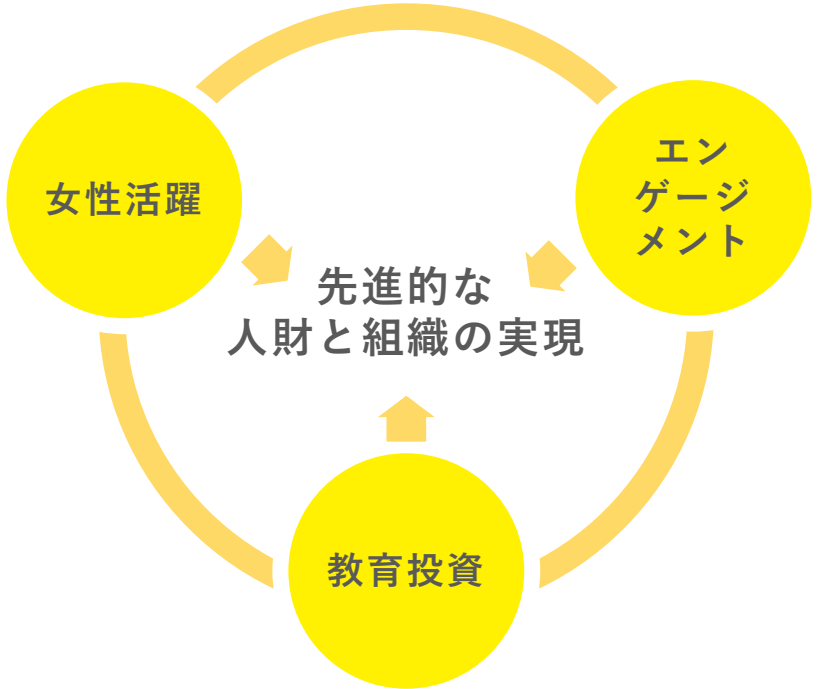
30%超

23年9月 50.0%

グループ全社 管理職女性比率

50%目途

23年6月 44.7%



教育投資含む 人財投資額

5億円以上

エンゲージメント スコア

2023年10月に調査実施
課題と対応方針を策定

延べ800名以上に教育実施
コミュニケーションの活性化など、職場環境改善に向けたオフィス改装を実施

人財投資　トピックス

- 各領域のトップエキスパートを講師として招聘、先端的かつ実践的なトレーニングを全社員に提供
- 統合3社の部門間連携強化やグループシナジーの更なる創出に向けて、オフィス改装を実施

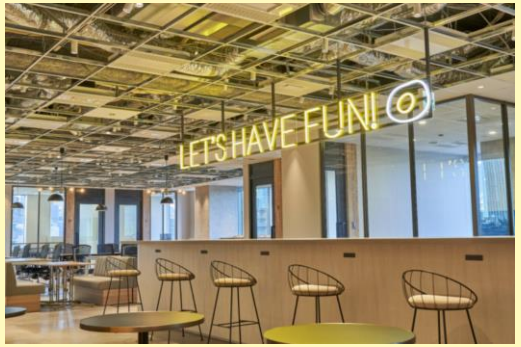
教育カリキュラムの実施

- 当期より教育カリキュラムを刷新
  先端的かつ実践的なトレーニングを提供
- 述べ800名以上が参加

2Qの講義テーマ	講師
マーケティング コンシューマージャーニー	グローバルIT企業 日本法人　執行役員
ファイナンス・ アカウンティング	ベストセラー会計書 著者
コーチング	サニーサイドアップ社長 リュウ シーチャウ

オフィスのリノベーション

- 2023年12月に本社オフィス2フロアのうち
  1フロアを全面改装
- グループ企業間・部門間の垣根をなくした
  オープンな環境でコミュニケーションが活発化



女性活躍推進　トピックス

- 2023年12月、東京都主催の「令和5年度東京都女性活躍推進大賞」を受賞
- 多様なライフスタイルを支える独自の福利厚生制度や女性の社会的課題を解決を目指す啓蒙活動が評価

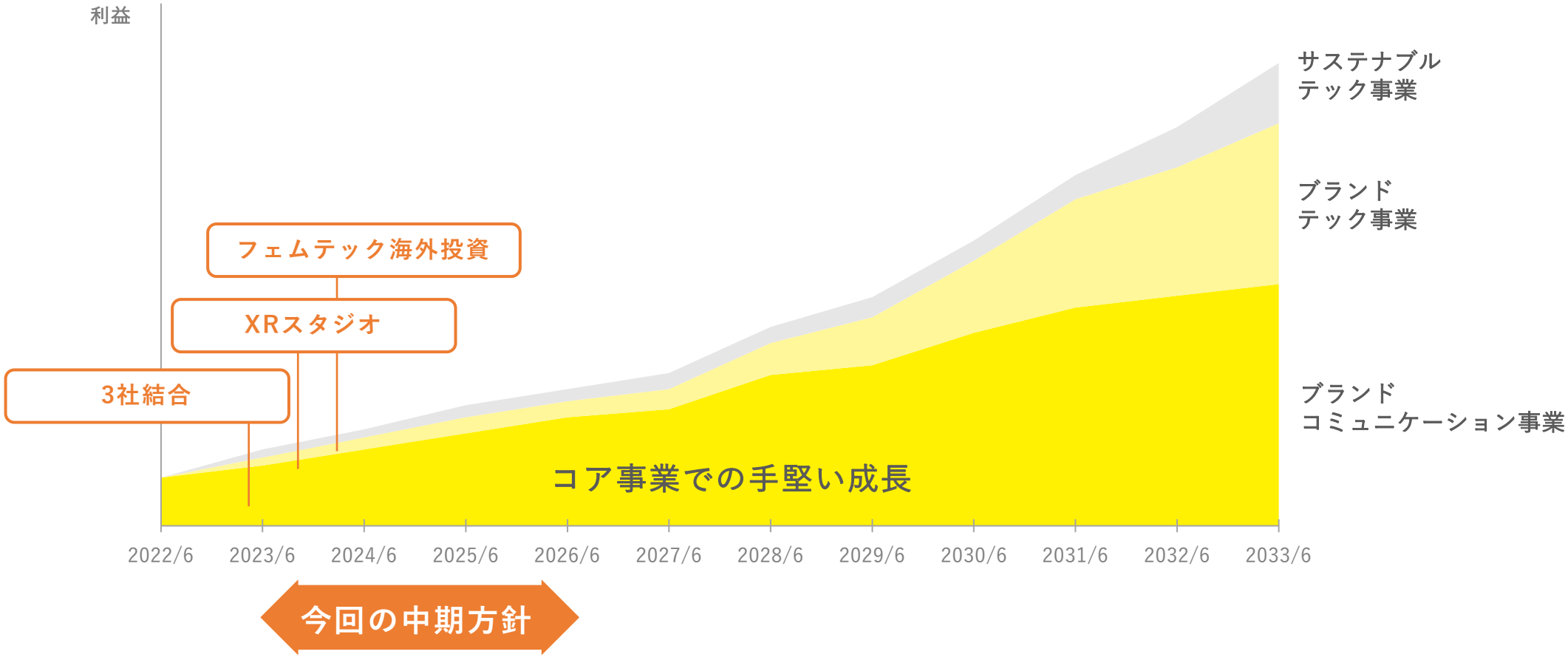
令和5年度東京都女性活躍推進大賞を受賞

- **2011年独自の福利厚生制度「32の制度」制定**
  - 卵子凍結の費用補助、AMH検査（抗ミュラー管ホルモン検査）の費用補助など、多様なライフスタイルを支えるユニークな制度を拡充

- **社内外で女性活躍推進の取り組みを推進**
  - 社内組織としてソーシャルグッド推進室を設置（現在は改組）
  - グループ会社グッドアンドカンパニーでは、コミュニケーションの力を活かした社会課題解決事業を展開中

中長期の事業成長イメージ

- 今回の中期方針期間においては、コア事業での手堅い成長に注力
- コア事業周辺への戦略投資も行い、次期中期方針以降の新しい事業成長の柱を創造していく



（注）2023年8月14日公表 「2023年6月期決算説明資料」より抜粋

4.

Appendix

連結財務諸表

	2022年12月末		2023年6月末		2023年12月末		
	百万円	構成比	百万円	構成比	百万円	構成比	前期末差異
流動資産	**9,198**	**84.5%**	**6,622**	**77.0%**	**8,133**	**82.0%**	**1,510**
現金及び預金	3,488	32.1%	3,089	35.9%	**2,418**	**24.4%**	**▲ 671**
売掛金	4,139	38.0%	2,620	30.5%	**4,328**	**43.6%**	**1,707**
未成業務支出金	481	4.4%	551	6.4%	**893**	**9.0%**	**341**
その他の流動資産	1,088	10.0%	360	4.2%	**492**	**5.0%**	**132**
固定資産	**1,684**	**15.5%**	**1,972**	**23.0%**	**1,783**	**18.0%**	**▲ 189**
資産合計	**10,882**	**100.0%**	**8,595**	**100.0%**	**9,916**	**100.0%**	**1,321**
負債合計	**7.763**	**71.3%**	**4,867**	**56.6%**	**5,891**	**59.4%**	**1,024**
買掛金	2,777	25.5%	1,989	23.1%	**3,515**	**35.4%**	**1,526**
有利子負債	2,706	24.9%	1,218	14.2%	**992**	**10.0%**	**▲226**
その他の負債	2,279	20.9%	1,659	19.3%	**1,384**	**14.0%**	**▲ 274**
純資産合計	**3,119**	**28.7%**	**3,728**	**43.4%**	**4,024**	**40.6%**	**296**
資産・負債合計	**10,882**	**100.0%**	**8,595**	**100.0%**	**9,916**	**100.0%**	**1,321**

11年間の連結業績ハイライト

	単位	2013/6	2014/6	2015/6	2016/6	2017/6	2018/6	2019/6	2020/6	2021/6	2022/6	2023/6
業績の状況												
売上高	百万円	13,018	12,443	11,940	13,393	13,891	13,537	14,627	14,094	15,356	16,190	18,956
営業利益	百万円	438	51	-88	447	387	355	610	420	519	767	1,296
経常利益	百万円	558	153	83	236	494	365	718	275	666	1,284	1,335
親会社株主に帰属する当期純利益	百万円	353	-7	-330	-216	304	380	493	-210	298	581	884
キャッシュ・フローの状況												
営業活動によるキャッシュ・フロー	百万円	822	-377	37	24	352	757	529	549	339	1,185	846
投資活動によるキャッシュ・フロー	百万円	-376	-85	-91	-159	-325	738	-336	-685	-311	-274	-274
フリー・キャッシュ・フロー	百万円	446	-462	-54	-135	27	1,495	193	-135	27	910	571
財務活動によるキャッシュ・フロー	百万円	-491	551	-90	212	-92	-794	-338	705	423	-294	-744
現金及び現金同等物の期末残高	百万円	875	996	902	1,045	995	1,696	1,559	2,135	2,587	3,214	3,074
資産の状況												
総資産	百万円	4,751	5,613	5,291	5,773	5,706	5,327	5,788	5,462	7,163	7,548	8,595
純資産	百万円	1,949	1,906	1,423	1,402	1,555	1,888	2,397	2,087	2,340	2,820	3,728
有利子負債	百万円	1,228	1,676	1,684	1,833	1,716	1,020	720	1,506	1,915	1,722	1,218
設備投資・減価償却の状況												
設備投資額	百万円	351	416	105	143	291	236	256	28	164	48	141
減価償却費	百万円	105	112	170	149	127	141	161	143	106	94	85

（注）収益認識会計基準等を2022年6月期の期首より適用しております。

11年間の連結業績ハイライト

	単位	2013/6	2014/6	2015/6	2016/6	2017/6	2018/6	2019/6	2020/6	2021/6	2022/6	2023/6
株式の状況												
発行済株式総数	株	3,534,400	3,542,400	3,611,200	3,697,600	7,417,200	7,434,400	7,569,800	15,191,600	15,191,600	15,191,600	15,191,600
1株当たり配当金	円	20	20	10	30	10	10	10	2	6	12	15
配当性向	%	20.0%	-	-	-	24.1%	19.4%	15.2%	-	30.3%	31.1%	25.3%
1株当たりの状況								*	*			
1株当たりの当期純利益額	円	102.54	-2.18	-93.76	-60.43	41.57	25.85	33.42	-13.97	19.83	38.58	59.28
1株当たりの純資産額	円	515.76	501.30	371.66	343.55	198.20	120.72	153.13	135.17	151.30	178.92	238.78
経営指標												
営業利益率	%	3.4%	0.4%	-0.7%	3.3%	2.8%	2.6%	4.2%	3.0%	3.4%	4.7%	6.8%
ROE	%	20.5%	-	-	-	22.4%	23.5%	24.2%	-	13.8%	23.4%	28.3%
ROA	%	11.6%	3.0%	1.5%	4.3%	8.6%	6.6%	12.9%	4.9%	10.6%	17.5%	16.5%
自己資本比率	%	38.4%	31.6%	25.1%	21.8%	25.5%	33.4%	39.7%	37.3%	31.8%	35.7%	41.4%
D/Eレシオ	倍	0.7	0.9	1.3	1.5	1.2	0.6	0.3	0.7	0.8	0.6	0.3
従業員の状況												
従業員数	人	197	186	196	260	273	358	382	354	334	376	347

（注）1. 収益認識会計基準等を2022年6月期の期首より適用しております。
2. 2017年5月30日付で普通株式1株につき2株の割当で株式分割を行っております。
3. 2019年7月11日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行い、1株当たりの状況(＊)は有価証券報告書に基づきます。

11年間のセグメント別業績

	単位	2013/6	2014/6	2015/6	2016/6	2017/6	2018/6	2019/6	2020/6	2021/6	2022/6	2023/6	
売上高		2020/6までの報告セグメント							過年度遡及	2023/6までの報告セグメント			
コミュニケーション事業①	百万円	3,019	5,081	5,789	5,429	5,715	6,194	7,434	8,158	5,818	9,119	7,744	8,207	マーケティング＆コミュニケーション事業①
スポーツ事業②	百万円	960	923	804	1,068	1,302	1,278	1,366	1,080					
SP・MD事業③	百万円	5,960	3,930	2,313	3,531	2,588	1,451	1,234	1,389	4,984	3,644	5,489	7,178	セールスアクティベーション事業②
bills事業	百万円	2,252	2,385	2,930	3,120	4,100	4,421	4,241	3,259	3,259	2,355	2,359	2,901	フードブランディング事業
開発事業	百万円	826	121	102	244	184	191	351	205	31	236	596	669	ビジネスディベロップメント事業
計	百万円	13,018	12,443	11,940	13,393	13,891	13,537	14,627	14,094	14,094	15,356	16,190	18,956	計
【合計】①+②+③	百万円	9,940	9,935	8,907	10,029	9,606	8,924	10,035	10,629	10,803	12,764	13,234	15,385	【合計】①+②
セグメント利益		2020/6までの報告セグメント							過年度遡及	2023/6までの報告セグメント			
コミュニケーション事業①	百万円	529	550	694	666	595	715	996	1,162	968	1,284	1,954	1,917	マーケティング＆コミュニケーション事業①
スポーツ事業②	百万円	99	76	73	140	172	178	237	288					
SP・MD事業③	百万円	63	-111	-110	294	34	-150	2	2	514	310	344	380	セールスアクティベーション事業②
bills事業	百万円	161	-102	-155	28	126	166	66	-210	-210	-293	-366	76	フードブランディング事業
開発事業	百万円	23	136	-72	-71	-25	40	59	-4	-40	110	-82	88	ビジネスディベロップメント事業
調整額	百万円	-439	-499	-516	-611	-515	-594	-753	-817	-810	-892	-1,082	-1,166	調整額
計	百万円	438	51	-88	447	387	355	610	420	420	519	767	1,296	計
【合計】①+②+③	百万円	692	516	656	1,101	802	743	1,237	1,452	1,482	1,595	2,299	2,297	【合計】①+②

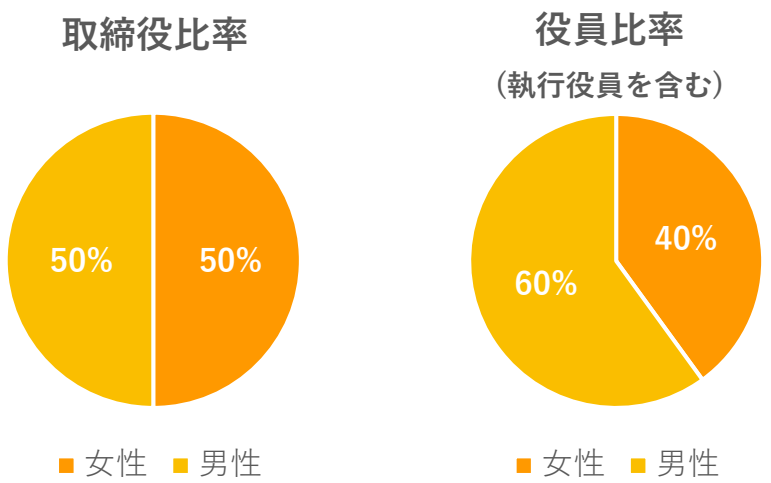
（注）収益認識会計基準等を2022年6月期の期首より適用しております。

コーポレートガバナンス

- 当社の女性取締役比率は50.0%、執行役員を含む女性役員比率は40.0%
- 社外取締役比率は50.0%

SUNNY SIDE UP GROUP

取締役/執行役員 女性比率



連結子会社

SUNNY SIDE UP
KUM-NAMU ENTERTAINMENT
steady study
airside CREATIVE PR AGENCY
& Good&Co.
SUNNY SIDE X
FLYPAN
SUNNY SIDE UP KOREA

（注） 2023年9月26日現在

グループ経営体制

当社

取締役	代表取締役社長	次原 悦子
	代表取締役副社長	渡邊 徳人
	社外取締役	長井 亨
	取締役(監査等委員)	白井 耀
	社外取締役 (監査等委員)	藤井麻莉
	社外取締役 (監査等委員)	服部景子
執行役員	上級執行役員 最高執行責任者	植野 大輔
	執行役員	小林 伸也
	執行役員	谷村 江美
	執行役員	大竹 貴也

連結子会社

株式会社サニーサイドアップ	代表取締役社長	リュウ シーチャウ
株式会社クムナムエンターテインメント	代表取締役社長	大塚 晴義
株式会社ステディスタディ	代表取締役社長	神出 瑞代
株式会社エアサイド	代表取締役社長	中居 進
株式会社グッドアンドカンパニー	代表取締役社長	谷村 江美
株式会社サニーサイドエックス	代表取締役社長	西谷 大蔵
SUNNY SIDE UP KOREA, INC	代表取締役社長	渡邊 徳人
株式会社フライパン	代表取締役会長	渡邊 徳人

CHANGE THE WORLD.

たのしいさわぎで、世界を変える。

・本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。
・本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。
・本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。
・本資料中の予想・予測などは、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。
そのため、実際の業績は、事業環境の変化等の様々な要因により、記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることがあります。

＜本件に関するお問い合わせ＞
株式会社サニーサイドアップグループ　経営管理部経営管理グループ
TEL：03-6894-2241 mail：keiki@ssu.co.jp